

清須学推進事業（案）

1 清須学講座の開講（案）

(1) 講座の構成

年間6講座を想定し、毎年度実施する基本講座と年度ごとの企画講座で構成する。

	基本講座【4講座】	企画講座【2講座】								
概要	本市の地域資源の代表的なテーマを軸に、本市の歴史・文化を体系的に理解する上でベースとなる知識水準の習得	毎年内容を変えて、最新の研究成果や社会的トレンドに即したテーマ等を設定								
テーマ	(a) 朝日遺跡 東日本最大級であった規模や重要文化財の価値 (b) 清須城 政治経済の中心地、名古屋市のルーツ（地名の由来） (c) 美濃路 日本三大青物市場、西枇杷島まつり (d) 川との共生及び食文化 川が織りなす地形の特色と生活や食の文化（宮重大根等）	設定の例としては、受講者の学習意欲の呼び水となるようなトピックを切り出すか、あるいは毎年実施する基本講座を補完するようなものが想定される。 (例) ・大河ドラマ「●●」と清須 ・治水とまちづくり								
実施方法	(案1) テーマ単位での講座設定 (a)～(d)のテーマ単位で講座を構成 (案2) 体系軸単位での講座設定 シブシックプライドの醸成に資する「体系軸」を単位として講座を構成し、その中に上記4テーマを織り込む ⇒「体系軸」の例	座学とフィールドワークで構成 ⇒「座学+フィールドワーク」で2講座とするか、それぞれ独立した1講座で開催するかは、当該年度のテーマに即して柔軟に検討								
	<table border="1"> <tr> <td>都市</td> <td>各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証する。 朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路においてそれぞれが果たしていた意義を確認することで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認。</td> </tr> <tr> <td>美</td> <td>文化財や景観における美を扱う。 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立</td> </tr> <tr> <td>食</td> <td>この地域で食べられていた食事、あるいは食にまつわる産業や文化からアプローチする。</td> </tr> <tr> <td>近代</td> <td>明治から今日までの地域産業や学校教育の歩みを中心に、各テーマの変遷を織り込みつつ、明治生まれ、大正生まれ等、各世代の市民目線で概観する。</td> </tr> </table>	都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証する。 朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路においてそれぞれが果たしていた意義を確認することで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認。	美	文化財や景観における美を扱う。 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立	食	この地域で食べられていた食事、あるいは食にまつわる産業や文化からアプローチする。	近代	明治から今日までの地域産業や学校教育の歩みを中心に、各テーマの変遷を織り込みつつ、明治生まれ、大正生まれ等、各世代の市民目線で概観する。	
都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証する。 朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路においてそれぞれが果たしていた意義を確認することで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認。									
美	文化財や景観における美を扱う。 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立									
食	この地域で食べられていた食事、あるいは食にまつわる産業や文化からアプローチする。									
近代	明治から今日までの地域産業や学校教育の歩みを中心に、各テーマの変遷を織り込みつつ、明治生まれ、大正生まれ等、各世代の市民目線で概観する。									

(2) 開催方法

- ・土日開催を想定（学生を含む一般市民や教職員が参加しやすいよう、土日開催を想定。）
- ・事前申し込み制で、定員は40名程度（教職員を除く）を想定。※定員を超えても可能な限り対応予定

2 「マイスター」の認定（案）

(1) 認定の仕組み

「清須学検定」（仮称）の実施を通じた認定の仕組みを想定しているが、マイスターを認定するための検定実施方法として、次の3つの案が考えられる。

	(案1) 得点ランク制	(案2) 等級制	(案3) マイスター認定試験
概要	TOEIC等のように、合否ではなく、得点域ごとに定めたランクで受験者の習熟度を認定	1級から●級までといった難易度別の検定試験により、合否判定を実施する手法	マイスターを認定するためだけの試験として実施する手法
課題	・同じ習熟度を測る(案2)と比較して、全受験者を同じ問題で試験を実施できる ・マイスター認定ランクの設定が必要	・毎年複数の問題作成が必要 ・マイスター認定をする級の設定が必要	・受験者の習熟度を段階的に測ることはできない

⇒ この検定試験を「ご当地検定」として定着させることも視野に、広く市内外から受検者を募集する方向で(案1)案を軸に検討を進める。

(2) 検定の内容

設問は、清須学講座の内容に関する習熟度を測るものと、マイスターに求める資質（より高度な知識等）に関するものとの構成することを想定。

3 関係する重要業績評価指標（KPI）

KPI 項目	基準値（平成27年）	平成28年度末	平成31年度末
清須学歴史マイスターの認定者数	—	10人	(累計) 40人
清洲城及び愛知県清洲貝殻山貝塚資料館の入場者数	85,204人	90,000人	120,000人